



本イベントへの参加者からのご意見・ご提案

(1) イベントについて

- ・若い参加者が多く見られたのは良いが、年配の男女が少ない。
- ・今回の参加人数から意見を聞いたことが、市民の声を聴いたことになるのか疑問。
- ・1つのテーマにしか参加できないというのは、少し残念でした。
- ・前回の時は説明を聴く事ばかりで残念だったが、今回は改善されたと感じた。
- ・普段話すことのない方々との交流をするという、貴重な体験ができた。
- ・各施策の説明やそれに対する意見交換は良いと思うが、この内容で「評価」を問われても難しい。

(2) 今後の開催に向けた提案

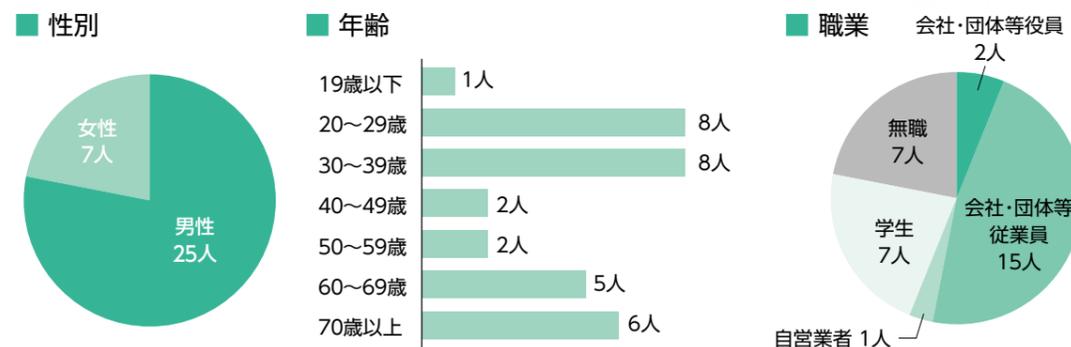
- ・参加者同士の交流が閉会とともに終了してしまったのは味気ないので、最後に各テーマごとに名刺交換会をしてはどうか。
- ・幅広い層からの意見を集めるために、区ごとにこうしたフォーラムを開催すべきだ。
- ・グループワークがあることで参加に抵抗があるひともいると思うので、単に施策について説明するだけの会があっても良いのではないかと感じた。
- ・最後の発表で取り上げられなかった意見も市政に反映してほしい。
- ・フォーラム開催や施策を市民へもっと周知すべきであると感じた。発信者と受信者のギャップを埋める環境が必要なのでは？

仙台市から

市の施策について市民の皆様にご評価いただくイベントとしては、昨年度に引き続いて2回目です。昨年度は、市の施策を「知っていただく」ことに主眼を置いたポスターセッション形式で行いましたが、もっと踏み込んだ議論をしたいというお声を踏まえ、今回の形式で開催いたしました。参加者の皆様同士の議論が円滑に進むよう、ファシリテーターさんのご協力により、肩肘張らないディスカッションとなりました。お一人1つのテーマでしたので、ご参加いただいたテーマ以外の内容も共有していただくため、議論の結果を市民の代表の方から発表をしていただく発表会も行いました。今後も、市の施策について、いかに「評価」をしていただくかという視点や参加者同士のコミュニケーションも考慮しながら、市民の皆様からご意見を頂戴する場のあり方を検討してまいります。また、今回のイベントでいただいたご意見等につきましても、テーマ担当課内で共有し、今後の施策展開に活かしてまいりたいと思います。

参加された方々

参加者合計 / 32人



報告書

市民まちづくり フォーラム

— 知ろろ、語ろろ、仙台の重要プロジェクト2013 —

日にち 平成25年7月7日(日)

時間 13:00～16:30

場所 仙台市市民活動
サポートセンター
セミナーホール

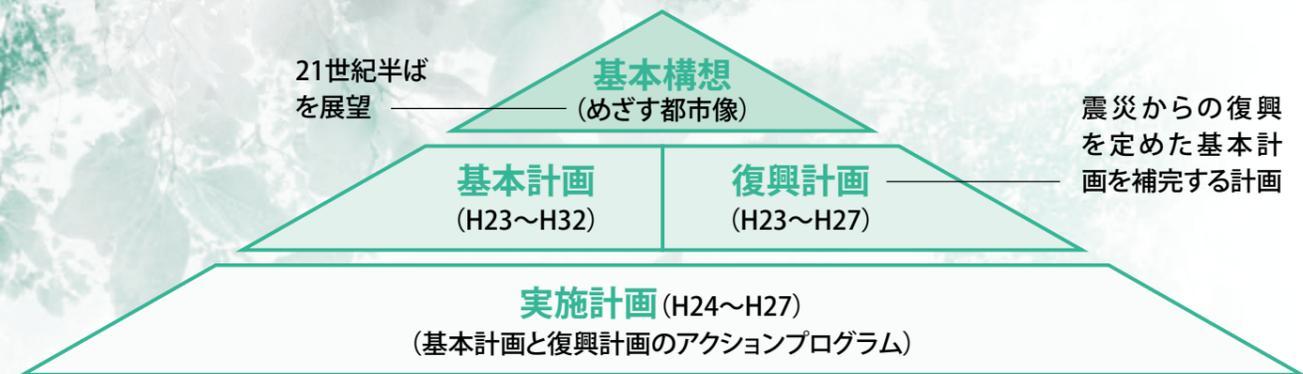


主催：仙台市

仙台市総務企画局企画部企画調整課 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL 022-214-0001 FAX 022-214-8037 E-mail som001030@city.sendai.jp

市民まちづくりフォーラム

仙台市の計画体系



実施計画 第2章 重点的な取り組み (重要プロジェクト)

都市像の実現を牽引する重点施策

- ① 学びを多彩な活力につなげる都市づくり
- ② 地域で支えあう心豊かな社会づくり
- ③ 自然と調和した持続可能な都市づくり
- ④ 人をひきつけ躍動する仙台の魅力と活力づくり

100万人の復興プロジェクト

- ① 津波防災・住まい再建プロジェクト
- ② 市街地宅地再建プロジェクト
- ③ 生活復興プロジェクト
- ④ 農と食のフロンティアプロジェクト
- ⑤ 海辺の交流再生プロジェクト
- ⑥ 防災・仙台モデル構築プロジェクト
- ⑦ 省エネ・新エネプロジェクト
- ⑧ 仙台経済発展プロジェクト
- ⑨ 交流促進プロジェクト
- ⑩ 震災メモリアルプロジェクト

【市民協働による評価・点検】

市民の方に仙台市の重要プロジェクトについて、評価をしてもらい、意見をいただこう!

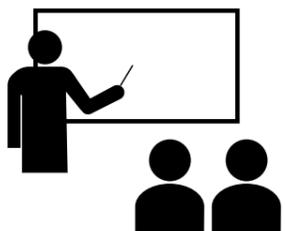
平成25年度市民まちづくりフォーラムについて

実施計画に掲げる重点的な取り組みの中から、テーマを設定し、市民の皆様には評価していただき、今後、より良い施策とするためにはどのようにすればよいか、ご意見・ご提案をいただくことを目的として、本イベントを開催しました。

〈フォーラムの流れ〉

施策プレゼン

各テーマの担当職員が施策の取り組み状況をご説明しました。



テーブルトーク

施策の評価や今後の展開についてファシリテーターさんの進行で参加者の皆さん同士で話し合いました。

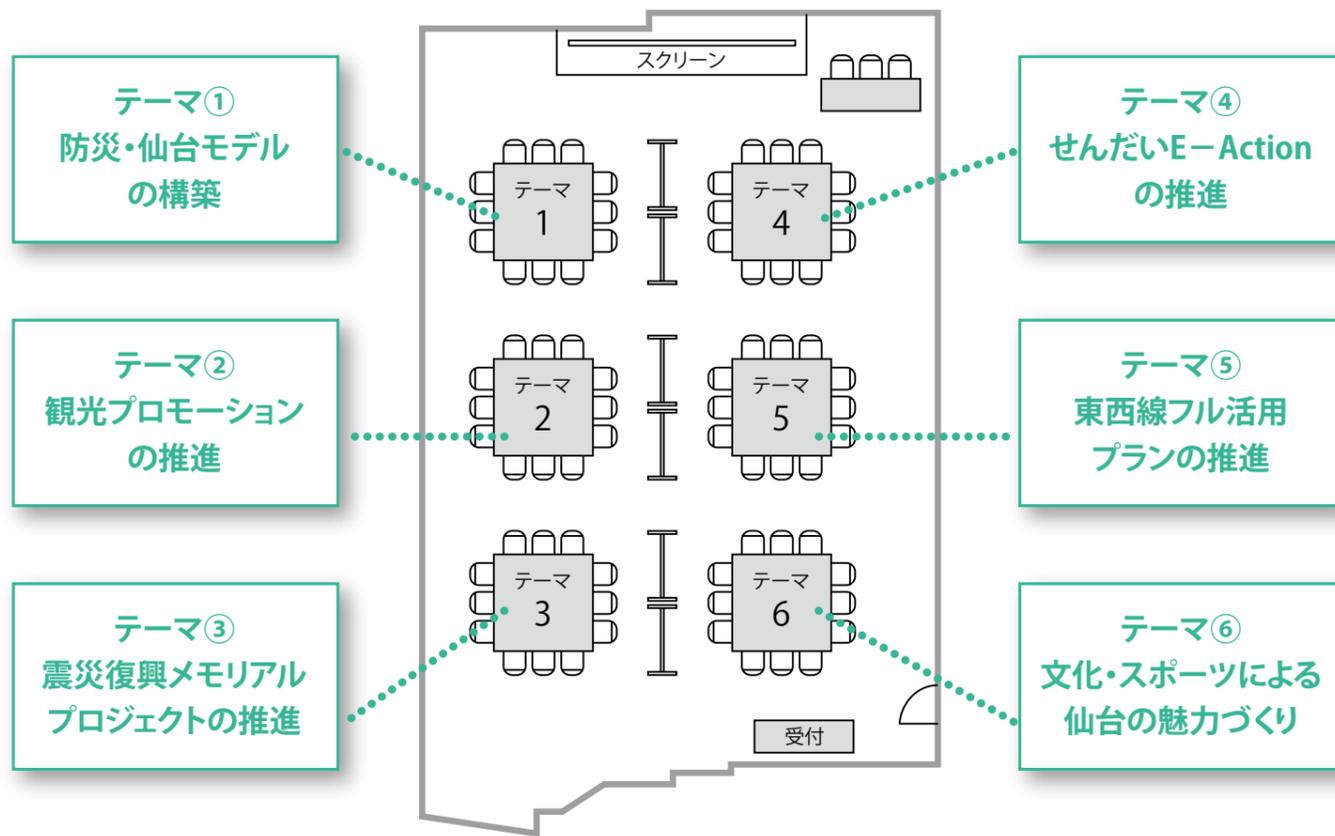


発表会

話し合った結果を他のテーマ参加者と共有してもらうため、発表会を行いました。



テーマ及び会場レイアウト



タイムスケジュール

13:00	開会
13:00~13:10	10分 オリエンテーション
13:15~13:40	25分 各グループの施策プレゼンテーション
13:40~14:50	70分 テーブルトーク
14:50~15:00	10分 休憩
15:00~16:30	90分 発表会
16:30	閉会

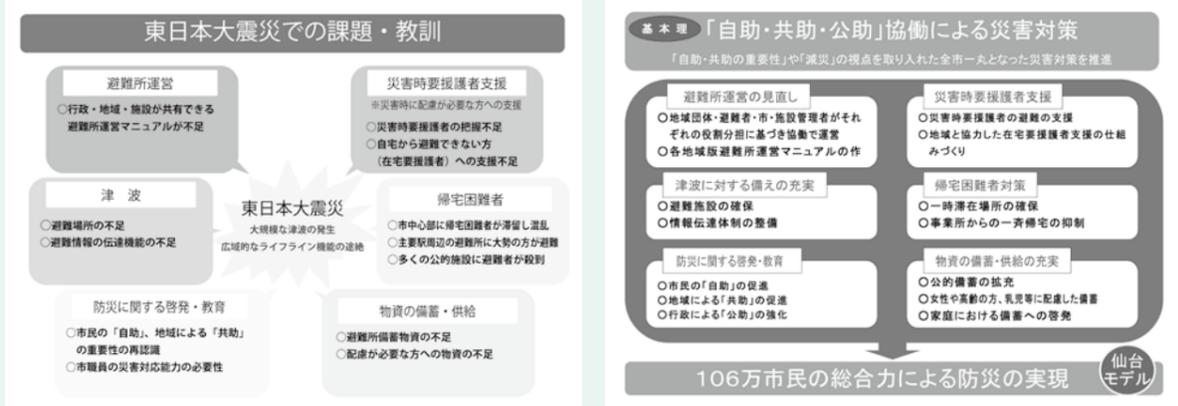


防災・仙台モデルの構築

[防災企画課、市民生活課]

【主な説明内容】

- 東日本大震災における課題や教訓を踏まえ、「自助・共助・公助」の協働による防災に関する「仙台モデル」を構築し、「106万市民の総合力による防災の実現」をめざします。
- 避難所は小学校や中学校等に開設するが、運営にあたっては地域の状況に応じた対応が求められるため、それぞれの地域住民と一緒に地域ごとの避難所運営マニュアルを作成し、今後の災害に備えます。
- より実効性のある避難所運営マニュアルとするためには避難所運営訓練の実施などによる検証が必要です。



震災の教訓を踏まえて見直した「地域防災計画」をもとに、地域ぐるみでの避難所運営など防災に関する「仙台モデル」の構築に向けた取り組みについてディスカッションしました。

テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 地域と仙台市で協議し避難所運営マニュアルを作成することとしているが、普段議論に参加しない市民を含め、どのように地域の一人ひとりに運営体制を周知し、共有を図るか。

【協議内容・提案等】

マニュアルの策定に当たって

- 地域において慣れない部分をいかに仙台市がバックアップし「協働」を体现できるか。
- 早期に決めること、長期で決めることをひとまとめにするのではなく、分けて考えて政策を練る必要があること。

共有する相手は？

- 仙台市は転勤族や学生さんが多いため、転勤者、学生。
- マンションの防火管理者、地域防火アドバイザーなど専門の資格を持っている人。
- 不動産業者や、マンション、学校等を介して、誰でも登録できる「防火クラブ」を作る。

どのような方法で伝える？

- 町内会の総会での呼びかけ、掲示板の利用、各戸への配付。
- コンビニ、不動産業者、学校にパンフレットを配布。
- 携帯電話でも見ることができるようネットを利用したの情報配信。
- 命に関わることなので、共有・情報発信方法も一つに絞るのではなく、二重、三重に伝達することを考えること。



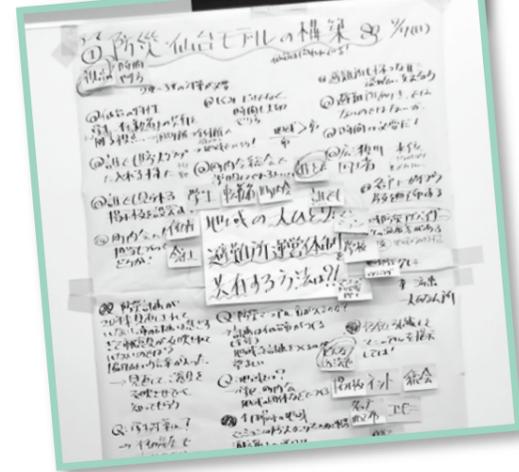
ファシリテーターからイベントを経て…

地域社会デザイン・ラボ
代表

遠藤 智栄 氏



市の計画について、特に一人ひとりに関係する防災などの命に関わる計画は、いざという時に活かすことができるよう市民が計画づくりから関わる仕組みが必要だと思っています。一方、策定を急ぐ計画に関しては、作成後に必要に応じて市民と市が一緒になってすぐに見直したり、課題を継続的に検討していく仕組みも必要だと思っています。



施策アンケートの集約結果 (イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

施策の認知度

知っていた 2人	少しは知っていた 2人	無回答 1人
----------	-------------	--------

施策の取り組み(イベント開始前)

評価する 3人	どちらかといえば評価しない 1人	無回答 1人
---------	------------------	--------

施策の取り組み(イベント終了後)

評価する 2人	どちらかといえば評価する 1人	無回答 2人
---------	-----------------	--------

施策を知っていた方の評価

- 自分の知らないところで事業が動いていたことを知りました。
- 内容や課題の確認が出来た。
- みんなの意見や質問などをグループごとにまとめて、代表者が未来思考で発表されたのが良かった。

テーマ担当職員 感想

東日本大震災の教訓を踏まえて、地域防災計画を見直しましたが、計画を見直したこと自体、市民の方々に知られていないことがわかりました。計画の内容を市民の方々に共有していただくことが大事なので、今後、様々な機会をとらえて積極的に周知していく必要があると感じました。

観光プロモーションの推進

[観光交流課]

本年4月から6月まで実施した「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」の状況など、観光による交流人口拡大に向けた取り組みについてディスカッションしました。

【主な説明内容】

- 平成25年4月から6月の間、JRグループや県内自治体、観光事業者等と協力して「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)」を実施しました。
- 観光客数を震災前の水準へ回復させるために、震災の語り部タクシーなど要望の多い震災に関係する事業の実施や、慶長遣欧使節出帆400年関連の紹介など、仙台の新たな魅力を発掘して発信する取り組みなどを行いました。
- 観光関連産業は裾野が広く、本市の産業構造上も重要な産業であるため、DC終了後においても、北海道新幹線の整備などをチャンスと捉えて、交流人口の拡大に取り組む必要があります。
- 全国的に評価が高い「おもてなしの心」をより感じていただき、豊富な観光資源や食べ物、スポーツ観戦や体験型観光などの都市型観光を推進していきます。



施策アンケートの集約結果 (イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

施策の認知度

知っていた 1人	少しは知っていた 2人	知らなかった 2人
----------	-------------	-----------

施策の取り組み(イベント開始前)

評価する 2人	どちらかといえば評価する 1人	無回答 2人
---------	-----------------	--------

施策の取り組み(イベント終了後)

評価する 3人	どちらかといえば評価する 2人
---------	-----------------

施策を知らなかった方の評価

- 現在進行中の内容と問題点を我々一般市民が知り、学び、意見提案を直接できるいい機会でした。

施策を知っていた方の評価

- 施策の詳細説明を伺い、参加者として討議しても印象は変わらない。もっと県外の人々の意見や企業からの提案を伺い、新たなアイデアに基づく観光推進策を実施する必要がある。

テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 幕の内弁当といわれる仙台の街中にあふれる魅力を、どのように交流人口の拡大に生かしていくか。
- 「キャラクターの活用」「情報発信」「復興ツーリズム」「外国人誘客」の視点から仙台を売り込むアイデアは。

【協議内容・提案等】

DCを総括すると

- 宮城県や周辺市町村、さらには企業との連携の必要性を認識。
- 「学都仙台」を活かして、留学生をキーマンに、各国のパンフレットを用意し、母国へ紹介してもらうような仕組みなど海外へのアピールの必要性を認識。
- はじめて仙台に来る方への「おもてなし」として、駅の案内所の改善(大きく、ガイド常駐、腰をかける場所の設置)や町のガイドツアーの強化・ガイドボランティアの増加。

仙台の売り込み方

- 幕の内弁当型とインパクトのある牛タン弁当型での打ち出し
- みどり豊かなきれいな街並み、ガス灯のある冬のイメージアップ、広くてきれいな通り、島崎藤村や定禅寺通の彫刻など、これまであまり取り上げられなかった新たな観光資源を掘り起こしてセットで紹介。
- 仙台四郎の活用(ストラップにして付けたいようなイケメン又はかわいいキャラへのイメチェン、全国プロモーション実施)。



テーマ担当職員 感想

観光プロモーションを推進するにあたり、その内容が市民の皆様には浸透していないことを改めて認識いたしました。「仙台四郎」の新しい展開や、仙台をテーマにした歌の活用、留学生との協働など普段気付かない視点からのご意見もいただき、広い視野を持って施策を進めることの必要性を感じました。説明内容以外の施策に関してもご意見やご提案をいただき、大変参考になりました。今後の業務に活かしてまいりたいと思います。



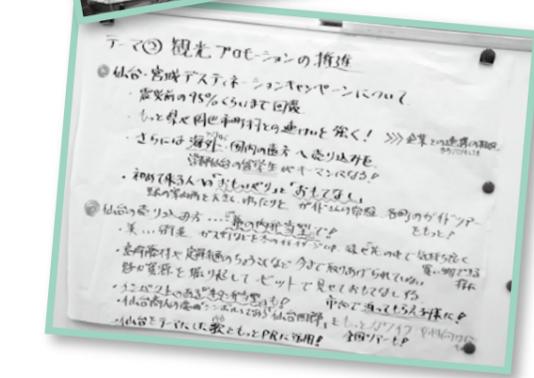
ファシリテーターからイベントを経て...

特定非営利活動法人
都市デザインワークス

佐藤 芳治 氏



観光プロモーションというのは、自分の街のいい所、楽しい事を人に伝えたいという想いから始まるものだと思ってきました。他の5つのテーマも観光につながる大事な視点で、その中からさらに街の楽しみ方を増やして、多くの人に伝えるためのテーマやキーや手法などを行政と市民と企業が一緒に具体的に考えていける良いと思います。



震災復興 メモリアルプロジェクトの推進

[震災復興室]

震災の記録と復興を後世に継承するため、震災遺構の保存も含め、震災メモリアルプロジェクトの取り組みについてディスカッションしました。

【主な説明内容】

- 本市の震災復興計画において、震災メモリアルプロジェクトは重点的に取り組む10のプロジェクトのひとつに位置づけられています。
- 各被災地では、震災遺構の保存に向けた取り組み、国や民間企業等によるアーカイブの発信、文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動など、震災の記憶や復興へ向けた思いなどを風化させないさまざまな取り組みが行われており、そのための「復興のシンボル」などについても検討を進める必要があります。
- 本市では、民間の有識者などで構成する震災復興メモリアル等検討委員会を立ち上げ、復興のシンボルとなる東部地域の緑の復元、荒浜集落・小学校の遺構保存や中野・藤塚地区のモニュメント整備のあり方などについて、その具体化・深化に向けて検討を進めます。

●H24年度末イメージ



●将来イメージ



●H27年度末イメージ



施策アンケートの集約結果 (イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

■ 施策の認知度

知っていた 2人	少しは知っていた 1人	知らなかった 1人	無回答 2人
----------	-------------	-----------	--------

■ 施策の取り組み(イベント開始前)

評価する 2人	どちらかといえば評価する 1人	無回答 3人
---------	-----------------	--------

■ 施策の取り組み(イベント終了後)

評価する 3人	どちらかといえば評価しない 1人	無回答 2人
---------	------------------	--------

施策を知らなかった方の評価

- 誰に対してのメモリアルかが不明。震災と震災のメモリアルの意味合いは違うと思う。

施策を知っていた方の評価

- 震災を後世に残すにはどうすれば良いのかをみんなで話し合うことができた。そのことがとても重要なのだと思う。そんな話合える「広場」が常設されることを希望。
- 予想していた施策現状より内容が良かった。

テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 市民との協働による復興メモリアルをどのように推進するか。
- 「市民が取り組めるメモリアル」はなにか。

【協議内容・提案等】

推進にあたっての考え方

- これから生まれてくる子どもたち、被災地以外の場所に住んでいる方々などに「伝える」ことが一番の目的であり、箱物を用意するだけではなく、伝えるための仕組みづくりが重要であること(ex 過去に津波がきた目印として建てられた浪分神社を知っている人は少ない)。
- 人口が多いという仙台ならではの、市民が主人公となった取り組みを推進すること。

何を伝える?~仙台市ならではの出来事

- 東の海側における津波被害から、内陸部の家屋倒壊や地滑りなど、山から海まで100万人の100万通りの被災経験。
- 実際に被災するまでできていたことで、全く想像していなかった、できなくなった当たり前のこと。

どのような方法で伝える?

- 他人事ではなく自分事としてとして残す・考えるためのプログラムの作成、またそれを学び続けるための機会の創出。
- 海と山両方あるのが仙台の一つの特色であり、そこにメモリアルの要素を織り込む(海辺の公園には照明の色で津波の高さが分かるよう工夫するなど)。
- 発信の媒体としてアニメの利用。



ファシリテーターから イベントを経て...

特定非営利活動法人
都市デザインワークス



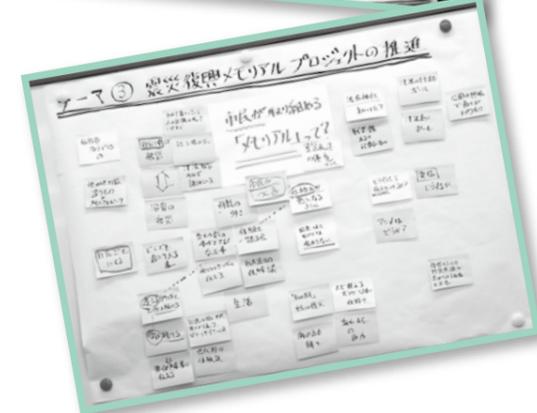
岡井 健 氏

一人ひとりの被災体験をどのように伝えていくか、多くの方が住んでいる仙台で市民ができることは何かという視点で考えていくことが重要だと思います。市民が語る場、それを具現化する仕組みが必要で、いつも行政は説明する側に座るのではなく、一緒にテーブルに着いて同じ目線で話ができる場が必要だと考えます。



テーマ担当職員 感想

震災復興メモリアルの検討においては、津波被害はもちろんのこと、日々の暮らしの中で普通にできていたことが出来なかったことなど、その被災経験を後の世代だけでなく他の地域の方にも伝えていくためには、震災の経験を他人事ではなく自分事として自ら考えてもらうという視点が重要であると感じました。今後は、このような視点を踏まえた仕組みづくりなど、震災復興メモリアルの検討を進めていきたいと思っています。



せんだいE-Actionの推進

[環境企画課、環境都市推進課]

「新次元の防災・環境都市」の実現に向け、「せんだいE-Action」による3E(省エネ、創エネ、蓄エネ)の取り組みについてディスカッションしました。

【主な説明内容】

- せんだいE-Actionは、省エネの「へらすE」、創エネの「つくるE」、蓄エネの「蓄えるE」の3つのEについて、市民一人ひとりが自ら考え行動し、その積み重ねにより、「持続可能なくらし」と「しなやかで強靱な杜の都」を実現させるための取り組みです。
- 省エネ「へらすE」の取り組みとして、節電による効果が小規模発電所の発電量に匹敵することがわかるよう、ウェブ上に仮想の節電所を建設する、「105万人の伊達な節電所キャンペーン」を実施しています。
- 創エネ「つくるE」と蓄エネ「蓄えるE」の取り組みとして、太陽光発電でつくった電気を蓄える蓄電池などを対象とした仙台★スマートハウス補助金の交付や太陽光発電の仕組みに関する情報提供など家庭の3E推進を応援する取り組みを実施しています。
- 市役所においても、指定避難所をはじめとして、公共施設へ太陽光発電や省エネ・節電型設備の導入を進めています。今後も、「せんだいE-Action2013実行委員会」を中心としてイベントなどを企画し、市民の皆様、事業者の皆様と一緒に環境にやさしく災害に負けない強靱なまちづくりに取り組みます。



テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 環境問題は難しい、敷居が高い、余裕がある人がやる分野だというイメージをいかに払拭するか。
- 3Eに市民一人ひとりが無理なく継続的に楽しみながら取り組むことができるか。

【協議内容・提案等】

今あるものや街の魅力を活かしたE-Actionは?

- 光のページェントという非常に大きな電力を使用するイベントの逆をいく電気を使わないイベントの開催や、光のページェント時にE-Actionで節電した分の電力量を電飾の色の違いで表すなど。
- 参加するだけで蓄電、発電できるイベントの開催(特に秋のスポーツシーズンと絡めて)。
- 仙台平野独特の屋敷林居久根や広瀬川などの自然を活かした取り組み。

自分で楽しむための方法は?

- 自転車や公共交通の利用、あるいはLED照明の設置など3Eの推進につながる取り組みをすると電子マネーとして返ってくるエコポイント制度など、目に見える形でインセンティブを付与する取り組み。
- 節電ポイントを稼いで、敵キャラを倒したり、ミッションをクリアする環境ゲームを作り、小学校区ごとなど子どもたちや地域を巻きこんでの対抗戦の開催。
- 付けているだけで蓄電になる伊達な蓄電アクセサリーの作成。



ファシリテーターからイベントを経て...

コミュニティ・ワークス
代表

青木 ユカリ 氏



3Eに市民一人ひとりが楽しみながら継続的に取り組むためには、フォーラムの場だけではなく、小さい単位でも日常の中で、環境に関連するアイデア・取り組みを気軽に話せる場が必要だと思いました。このテーマ以外でも、いろんな立場の方と一緒に何かをやってみて、振り返る、そんな繋がりができる場が仙台にもっとあればよいと感じました。



施策アンケートの集約結果(イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

■ 施策の認知度

少しは知っていた 1人	知らなかった 3人	無回答 1人
----------------	-----------	--------

■ 施策の取り組み(イベント開始前)

どちらかといえば 評価する 1人	無回答 4人
---------------------	--------

■ 施策の取り組み(イベント終了後)

評価する 2人	どちらかといえば評価する 2人	無回答 1人
---------	-----------------	--------

施策を知らなかった方の評価

- 暮らしの中で3Eが達成できることに関心を持った。
- 市民が出来る範囲での現実的な取り組みだと思った。
- 幅広い市民を無理なく巻き込んでいく仕組み作りが途上だと思う。

施策を知っていた方の評価

- 直接説明を受け、理解することができた。

テーマ担当職員 感想

市役所が「温暖化対策」「エネルギー問題」などと言うと、どうしても堅苦しくなってしまうがちでしたが、参加者の方々からは、一人ひとりが今の生活を楽しみながら杜の都の環境を次の世代に伝えていくにはどうしたらいいかという観点から、「光のページェント」など仙台を代表するイベントとのコラボや広瀬川をはじめとする自然環境の活用等、私たちの街や暮らしが持つ良さを生かした柔軟なアイデアをたくさんいただきました。

東西線フル活用プランの推進

〔市民プロジェクト推進担当、東西線沿線まちづくり課〕

平成27年度の地下鉄東西線開業に向け、目指すまちの将来像や、沿線地域の魅力を更に高めるための市民協働による取り組みなどについてディスカッションしました。

【主な説明内容】

- 平成27年度開業予定の地下鉄東西線は、持続的な成長を駆動する新たな創造と交流の基軸としての役割が期待されます。
- 沿線には、豊かな自然環境や学術研究機関、歴史資源、新産業から農業まで多様な個性ある地域があり、その地域ごとの特長を生かしたまちづくりをめざしています。
- このたび、市民の方々とともにまちづくりに取り組むため、東西線フル活用プランを策定しました。
- また、「東西線まちづくり応援部」を結成し、応援部員の方から、東西線を軸とした新しいライフスタイルやビジネス、イベントなどのご提案をいただき、今後、東西線フル活用プランをさらに成長させ東西線開業に向け、さらに機運を盛り上げていきます。

4 DIMENSIONS x FULL!
何度でも乗りたい…楽ラク 得する観光メトロ!

地域の古くやアーティストとも連携し、駅や車内で楽しめる工夫
地域のイキイキな個性や魅力を発信する駅や車内の機能強化
観光・商業施設など沿線の魅力を最大限に、取り立てて盛り込める観光メトロ
沿線も観光も楽しめるメトロで、沿線の魅力を最大限に活用

住む・来る・あそぶ、仕事もデジタル沿線まちづくり!
市民のまちと駅との個性や魅力を高める「居・来り」型
イベントやアート活動で、個性や注目を高める沿線まちづくり
沿線への定住や移住の促進
アプリによる沿線歩きや、乗って・歩いて楽しむ沿線まちづくり
沿線でもっと楽しめる沿線まちづくり

市民プロモーター見参…
オール仙台で盛り上げる前白キャンペーン!
車窓から見える、ユニークな個性ある沿線まちづくり
「沿線の個性」による、市民の個性に合わせた沿線まちづくりや沿線まちづくり
大学と連携を軸に、高度な知見と学生パワーをフル活用
民間企業にも参加いただき、スキルが大きいインバウンドのあるキャンペーン展開

開業をにらみ加速する、街並みや施設整備!
事業の発展を促すため、駅周辺に「駅周辺整備」
新たなエンターテインメント施設など、駅周辺の活性化につながる特約的な施設整備
駅周辺エリアにおいて、乗客のための交通環境整備

仙台市地下鉄
「東西線まちづくり市民応援部」
が始まります。

みんなで一緒に
魅力あるまちに

地下鉄東西線を応援していただける方を募集します。



施策アンケートの集約結果 (イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

施策の認知度

知っていた 1人 少しは知っていた 5人

施策の取り組み(イベント開始前)

評価する 3人 どちらかといえば評価する 1人 どちらかといえば評価しない 2人

施策の取り組み(イベント終了後)

評価する 4人 どちらかといえば評価する 1人 無回答 1人

施策を知っていた方の評価

- 東西線を市民協働で盛り上げようという施策の内容を深く理解することができた。
- 今回参加したことで、沿線地域独自の特色を生かしたまちづくり計画であることや、仙台の将来を見据えた計画であることがよく理解できた。
- 東西線事業の成功には、市民の参加が不可欠だと感じたので、積極的に参加していきたいと思った。

テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 東西線開業10年後の仙台や沿線のまちがどのようなようになって欲しいか、そのために今から何に取り組めばよいか。

【協議内容・提案等】

10年後の仙台や沿線はどんなまちであって欲しい?

- 用事がなくても市民が行きたくくなるような、自慢できるまち。
- 東西線沿線の各駅それぞれが特長のあるまち。
ex) 卸町駅…古い倉庫を活用した世界最先端のおしゃれなまち、駅舎もおしゃれに!
- 駅がコミュニティの拠点になるまち。
- 地下鉄に乗ることが楽しくなるまち。
- 学生が通学しやすいまち。
- 自動車を使わない、交通渋滞が少ないまち。

その実現に向け、市民はどのように取り組むか?

- 市民がまちを知り、体験し、口コミやSNS等で、仙台の魅力をじわじわ発信。
- 沿線のガイドツアーを企画(仙台市民一人ひとりが観光客を案内することができるガイドを目指す)。

仙台市へのお願い

- ICカード乗車券の導入。
- イベント時の特別割引切符の導入。
- 地下鉄全線の土日乗り放題切符の導入。
- 運賃を安く(学生フリーパスの減額、運賃を100円台に)



テーマ担当職員 感想

様々な立場の方からまちの将来像についての意見を伺うことができ、大変参考になりました。開業まで2年あまり、ICカードの導入など具現化してきた面もありますが、目指すまちの実現に向けては、市民の方と行政がお互いの思いを議論し、実行していくことが大切だと感じました。市民応援部などの機会を生かしながら、東西線を契機として、仙台がもっと楽しい暮らしやすいまちになるよう、市民の皆様と一緒に頑張っていきたいです。



ファシリテーターからイベントを経て…

特定非営利活動法人
都市デザインワークス 代表理事

榊原 進 氏



皆さんが「仙台が好き!」ということが伝わりました。まちづくりを自分ごととして考え、何ができるか前向きな意見・提案が多く、将来の市民に対するメッセージにもなったと思います。このような、立場など関係なく意見交換できるような場が継続的にあると、市民の方がそれぞれに仙台に対する愛情を確認でき、それがまちづくりに繋がるとののたろうなと感じました。



文化・スポーツによる 仙台の魅力づくり

[文化振興課、スポーツ振興課]

東日本大震災からの復興においても大きな励みとなった仙台の魅力を彩る文化とスポーツへの取り組みについてディスカッションしました。

【主な説明内容】

- 本市は、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルの開催などによる「楽都仙台」、せんだい演劇工房10-BOXや能BOXの設置などによる「劇都仙台」、仙台文学館における文学の普及啓発をはじめとして、さまざまな文化芸術活動を推進しております。
- 仙台フィルと地元音楽家の共同で行った復興コンサートが多くの被災者に安らぎや勇気をもたらしたことや、本市の都市個性としてまちづくりや交流人口増につながるなど、文化芸術がもつ多様性は、本市の活力の創出やコミュニティの再生に大きく寄与しており、今後も推進していきます。
- 5月に開催した仙台国際ハーフマラソンでは、過去最大規模のイベントとなり、ランナーとして「する」、沿道から応援する「みる」、ボランティアとして大会を「ささえる」、子どもたちがスポーツに触れ合う機会を充実させる「ひろがる」の4つを体現したイベントであります。
- 昨年策定した本市のスポーツ計画推進において、人とまちの元気を育む「スポーツシティ仙台」を基本理念とし、「する」「みる」「ささえる」「ひろがる」を4つの柱として推進することとしています。

仙台市の主な文化振興の取り組み

- 「楽都仙台」の推進
 - 仙台国際音楽コンクール
 - 仙台クラシックフェスティバル
 - 仙台フィルハーモニー管弦楽団の発展 など
- 「劇都仙台」の推進
 - せんだい演劇工房10-BOX、能BOXの設置
 - 仙台文学館の活用 など
- その他文化振興施策
 - 仙台国際音楽コンクール
 - 復興における取り組みを支援 など

文化芸術を介した都市活力の創出

- 都市の個性を伸ばす
 - 文化資源を活用し都市の個性と魅力を創出する
- ブランド力の向上
 - 対外的な発信力の強化
 - 市民の誇り(シンビツプライド)
- 交流人口の拡大
- 震災復興に果たす文化芸術活動の役割の認識
 - 癒し、安らぎ、喜び、活力→「心の復興」
 - 人が集まる場の提供→コミュニティの再生



施策アンケートの集約結果 (イベント開始前と終了後において施策の評価をしていただきました。)

施策の認知度

知っていた 1人	少しは知っていた 1人	知らなかった 1人	無回答 2人
----------	-------------	-----------	--------

施策の取り組み(イベント開始前)

どちらかといえば評価する 2人	どちらかといえば評価しない 1人	無回答 2人
-----------------	------------------	--------

施策の取り組み(イベント終了後)

どちらかといえば評価する 2人	無回答 3人
-----------------	--------

施策を知らなかった方の評価

- 形だけではなく、実際に市民の声が活かされるのか分からない。
- まだまだ話し合いやブラッシュアップの余地がある。

施策を知っていた方の評価

- やっていることは素晴らしいことだが、市民に知られていないような気がする。もっと広報に力を入れてみてはどうか。
- 仙台市のアイデンティティの掘下げが足りない。

テーブルトーク結果

【主な課題・論点】

- 文化に関する取り組みの認知度の低さや一部の方の自己満足で終わらないためには。
- 仙台国際ハーフマラソンを例に身近にスポーツを楽しむには。

【協議内容・提案等】

文化施策の推進に当たって

- 携わる方たち自身が、自分から人へ、人から人への広がり意識すること。
- 市民が、伊達政宗、牛タン、冷やし中華だけではなく、逆に海外の方が知っているような情報も参考に、さらに仙台のアイデンティティを深め、それを発信する意識の醸成。

発信・広がり手段は?

- 紙媒体だけではなく、電子媒体化としてSNSや動画共有サイトを使うための広報。
- 行政の関わり方も含めて、文化等について議論することができるようなコミュニケーションの場のセッティング。

仙台国際ハーフマラソンをさらによくするための仕組みは?

- 車イスの参加を多くする仕組み(保険制度?)。
- ボランティアのコミュニティー化を図り、スペシャリストを養成できる仕組み。
- 子どもが大会を間近にみることや市民がボランティアやランナーとして継続して参加したいという気持ちを喚起させる仕組み。

身近にスポーツに取り組める仕組みは?

- 地域住民が学校の校庭などを放課後や日曜日に利用できるような仕組み(IDカードの提示など)。
- 「する」「ひろがる」など参加することへのハードルを下げるためのSNSなどを利用し気軽に参加者を募ることができるような仕組み。

テーマ担当職員 感想

仙台市の文化振興施策につきまして、市民の皆様の多様な意見を伺うことができ、勉強になりました。広報にもっと力を入れるなど、より広がりのある取り組みになるよう取り組んでいきたいと思っております。また、仙台国際ハーフマラソン大会につきましては、市民ランナーの皆さんが参加しやすい大会となったことを評価していただくとともに、よりよい大会となるためのご意見をいただき、大変参考になりました。



ファシリテーターから イベントを経て...

特定非営利活動法人
まなびのたねネットワーク

田中 聡子 氏



仙台は文化・スポーツも含め魅力にあふれ、その中からブランドとして打ち出すには、わかりやすいものに絞ってシンボライズすることも考えられますが、人それぞれの部分もあり、難しい面もあると感じました。行政も含めた施策に関連する方向士で議論する場など文化等に対する想いを共有できる場をつくる必要があるかと思いました。

